

# 教育の質の向上を目指して



## 跡見 裕

(杏林大学 学長)

### 【社会背景と教育改革】

近年教育の分野では様々な改革がなされています。この中で医学部、歯学部、薬学部などの医学・医療関係の教育システム（卒前・卒後）は最も大きく変化したものの一つといえます。日本の医療システムが抱えている様々な問題点が、医療事故・医療訴訟を通じて指摘され、社会的な批判を浴びることになりました。これらの問題点について様々な議論がなされましたが、その中には医学教育に関するものが少なくありませんでした。マスメディアの意見の中には外国の制度の短絡的導入や、情緒的なものも少なくなく、わが国の実情を無視した乱暴な意見も散見されました。一方ではこれを契機として一気に医学教育の改革に取り組まねばならないという機運も盛り上がったのも確かでした。文部科学省、厚生労働省や医学教育に関する様々な機関・施設による検討結果が示されました。杏林大学は医学部、保健学部の医療系学部があり、この問題に正面から取り組むことになり、PBL教育（課題基盤型学習）の実践・チュートリアル教育、統合カリキュラム、長期にわたる

クリニカルクラークシップ、専門教育の中での英語教育の必修化、early exposure（早期体験学習）と全人的な教育を通しての基礎・教養の両立などが実施されることになりました。この改革を経て、医学部、保健学部の教育に関するあり方は大きく見直され、その内容は文系の総合政策学部、外国語学部へと波及し全学的なものとなりつつあります。

### 【本学の教育実践取り組み】

平成二〇年一二月には中央教育審議会（中教審）より、新たな視点からの答申「学士課程教育の構築に向けて」が出されました。この中でもいわゆる大学全人時代を迎え、教育の質を保証するシステムの再構築が求められています。同答申はさらに、わが国の学士課程教育はグローバルな知識基盤社会、学習社会において、未来の社会を支えよりよいものとする「二一世紀型市民」を幅広く育成するという公共的な使命を果たし、社会からの信頼に応えていくべきであると指摘しています。

本学でも教育の質の向上を図ることが最も重要な課題の一つであると考えており、そのために次の四点の施策の実現に取り組んでおります。

その一つは少人数教育の推進で、医学部で実績をあげているPBLを利用した少人数教育や、総合政策学部で一年生を対象に必修科目として行われている一五名程度の学生に対して専任教員が四年間の履修の仕方やコース選択を指導する「プレゼミナール」の他学部への展開、Webを利用しての学生と教員の学習コミュニケーションの拡充、学部を超えた混成小グループ教育などがあげられます。

その二は総合大学の利点を生かした教育の推進で、「観光保健論」、「心と体のメカニズム」といった保健医療系科目の文系学部での開講、医療系教員と文系教員による相互交流の促進、全学的な教養講座の開講、他学部履修の推奨などが当面の課題となります。

その三は学生支援体制の整備で、ピア・サポートシステムを早急に構築するとともに、学生に配布する『プログラムスノート』を活用して、学生一人一人に対し、教務組織をはじめ学生支援センター、キャリアサポートセンターが連携して学生の成長を支援するシステムの確立を図ります。

その四は教職協働体制の構築で、退学者の抑制、入学志願者の増加、キャリア形成支援、キャンパス整備などに向けて教員と職員が一体となって取り組んでいくこととしています。

## 【本学の創設と教育の理念】

杏林大学の歴史は、初代理事長である松田進勇により、一九六六年現在の三鷹キャンパスに臨床検査技師を養成する杏林学園短期大学が設立されたことに始まっています。一九七〇年には良き臨床医育成を理念とする杏林大学医学部が創設されました。その後八王子キャンパスに保健学部、社会科学部（現在の総合政策学部）、外国語学部が相次いで開設されました。さらにこの間、医学研究科、保健学研究科、国際協力研究科の大学院研究科が併設され総合大学として着実に発展を遂げてまいりました。

杏林学園の杏林の意味するところは中国の故事に因んだものです。古く中国の廬山に董奉という名医がおり、彼は治療代を受け取る代わりに患者に杏の木を植えてもらったので広大な杏の林ができたという話です。杏林学園は三鷹キャンパスと八王子キャンパスに分かれており、広大な敷地の中には杏をはじめとする様々な樹々があり、学生生活を過ごすには申し分のない環境といえましょう。

創立者である松田進勇は座右の銘として、一、大志、二、実行、三、修己、四、自戒、五、朋友、六、度量、七、報恩、八、教育、九、事業、一〇、求道を掲げています。その中で述べられている、真善美の探究を心がけよが杏林大学の建学の精神となっています。真は真実・真理を究めるための謙虚な姿勢を表し、善は健全な倫理観に支えられた善き人間性・人格を備える事で、美は他者を尊重し自己を律する事ができる美しい生き

方を意味しています。私どもは、建学の精神を具体化するために様々な取り組みを行っており、これにより社会が求める人材を育てていると考えております。

## 【学習の基本】

本学での学習のポイントとして、今春の入学式で新入生に呼びかけたのは、杏林大学での学生生活で、ぜひしっかりとした形を学び取っていただきたい、ということでした。文献の検索の仕方、発表の仕方、論文の書き方という学問的なことはもちろんですが、挨拶の仕方、食事の仕方、講義の受け方などの様々な形があげられます。学問の分野でもまず形を学ぶ事から始まります。私たちが実験を開始するには、多くの基礎的な事を学び、実験のやり方をしっかりと真似ることからスタートします。独創的な研究も、その基盤はしっかりとした形を身につけることからはじまるのです。

## 【本学の展望】

わが国の一八歳人口は、平成二十一年以降一〇年間ほどは一二〇万人前後で安定的に推移する見込みですが、一方で学生募集を停止した大学も少なくありません。私立大学の四六・五%が定員割れの状況となり、帰属収支ベースで見ると平成二〇年度に赤字決算を計上した私立大学は三九%にも上るとされています。このような中で、ただ単に生き残りをかけるために教育の改革を目指すのではなく、真に質の良い本学ならではの教育システムを作り上げねばなりません。本学が目指す教育・研究の計画を確実に実行していくために、P D C Aサイクルを展開していく仕組みを確立し、全教職員、学生、卒業生などのすべての力を結集し、よりよい学園作りのため奮闘してまいります。